

# 1月消費支出 6.3%減

## 物価高影響続く 3年ぶり下げ幅

総務省が8日発表した1月の家計調査によると、1世帯（2人以上）当たりの消費支出は28万9467円と、物価変動の影響を除いた実質で前年同月比6・3%減少しました。マイナスは11カ月連続。自動車購入費や光熱費の減少が響き、下げ幅は2021年2月（6・5%）以来、約3年ぶりの大きさとなりました。

項目別では、車の購入を

含む自動車等関係費が15・7%減。ダイハツ工業の認証不正などで、自動車メーカーが生産や出荷を停止したことが影響したとみられます。また、暖冬により電気代が8・9%、ガス代が12・6%それぞれ減りました。

物価高の影響も続き、食料は2・7%減。特に夏の猛暑で生畜不良が目立った野菜・海藻は6・0%減で

は、昨年の政府の観光需要喚起策「全国旅行支援」による需要増の反動もあり30・9%減。外国パック旅行

## 1月景気動向指数 5.8%低下

### 「足踏み」に引き下げ

内閣府が8日発表した1月の景気動向指数（2020年＝100）速報値は、景気の現状を示す一致指数が前月比5・8%低下の110・2と、2カ月ぶりに悪化しました。豊田自動織機などの認証不正で、普通

費も円安で46・1%減りました。

一方、外食は4・1%増。新型コロナウイルスの治癒で自己負担が増加したことなどから、保健医療サービスは22・3%増となりました。

している」に引き下げました。下方修正は1年1カ月ぶり。

速報段階で反映させた8系列の経済指標はすべてマイナスに寄与。自動車向けのエンジンや鉄鋼などの出荷が減少したほか、輸出数量も米國と欧州連合（EU）向けで低下しました。

数カ月先の景気を示す先行指数は0・6%低下の109・9と、2カ月ぶりに悪化しました。建設用クレーンや化学工業製品の在庫率上昇が指数を押し下げました。また、新規求人数の低下も響きました。